



私たち 赤い電車応援団!



たくさんの方が「市民まるごと赤い電車応援団」として活動し、それぞれの方法で赤い電車を応援しています。



蒲郡高校3年生
牧野未咲希さん(右)
鈴木美柚さん(左)



牧野さんは幡豆、鈴木さんは形原に住んでいて、通学には赤い電車を利用しています。「赤い電車は昔から地域の足としてあって当然のもの。なのでなくしてほしくない」という思いがあります。



昨年、2人は生徒会の一員として名鉄利用促進大会で発表を行いました。蒲郡高校の利用促進活動、ダンス部・演劇部のごりやく市への参加や部活動の交流大会などの様子と、さらなる利用促進を狙うための提案です。牧野さんの「競艇場に行く人がもっと利用してくれるといい」、鈴木さんの「沿線それぞれの駅を降りると楽しいことがある」といい。駅周辺がお店などで活性化できれば」との提案のほか「沿線住民が協力し、車窓から見える景色をよくする」といったものもあげられました。

赤い電車に乗っていいと思った、平日の昼間の利用促進について「お年寄りが楽しめる、健康も考えられるイベントがあるといいかも」と新たな提案もいただきました。



形原中学校1年生
(前列右から)
吉見佳祐さん
壁谷悠磨さん
野仲海斗さん
(後列右から)
奥村友望さん
葛西希来さん
山本睦希さん



彼らは昨年、形原小学校6年生のときに1年間赤い電車について勉強をしました。利用状況や運行費用などを調べたり、形原駅で利用者にインタビューをしたりしました。促進大会で発表したこと、発表後の気持ちなどを聞きました。

壁谷さん「乗っている人が少ないので、増やしていきたいと思った。お年寄りや高校生は、利用することが多いと思うので、無くなつてほしくない。吉見さん「大会後赤い電車に乗ったとき、人がたくさん乗っ



困ることが分かった。自分も高校へ行くときに使うので、なくなつてほしくないと思った。

奥村さん「一番驚いたのは、50人乗っていると聞いてかなり多いと思ったけど、実際250人くらい乗れると聞いたので、やはり少ないと思った。自分も高校生になつたら、赤い電車を利用したいと思っているので、なくしたくはない。

葛西さん「勉強するまで興味がなかったけど、勉強していくうちにいろいろな人が使う赤い電車が無くなつたらやだなと思う